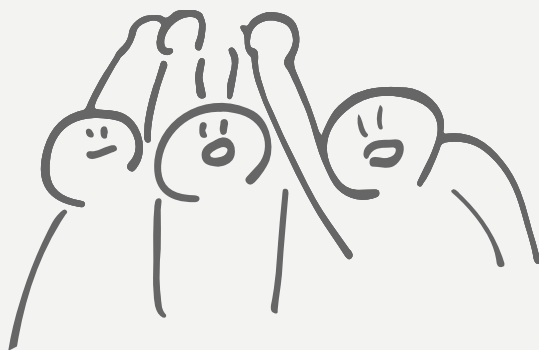


三浦市 こども部会 ワークショップの概要と主な意見



1 ワークショップの目的

こども基本法第11条において、「国及び地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、該当こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。」となっています。

そのため、こどもが意見を言える場をつくり、こどもの声を聞き、それを今後の三浦市のこども施策に役立てていくため、ワークショップを開催しました。

2 開催日時・場所

- ・開催日時：令和6年7月26日 午後13時30分～
- ・場所：チエルSeaみうら

3 参加者

- ・市内小学校5年生から中学3年生の15名

4 当日スケジュール

スケジュール

- ・ 13 : 30 開会、あいさつ（5分）
- ・ 13 : 35 自己紹介（10分）
- ・ 13 : 45 話し合いの進め方の説明（10分）
- ・ 13 : 55 話し合い（40分）
- ・ 14 : 35 休けい（5分）
- ・ 14 : 40 発表準備（5分）
- ・ 14 : 45 発表（10分）
- ・ 14 : 55 あいさつ（5分）
- ・ 15 : 00 終了

5 ワーキングのテーマ

いただいた意見や考えを三浦にいるこどもや子育てをしている人が幸せに暮らせるため」に生かしていきます。

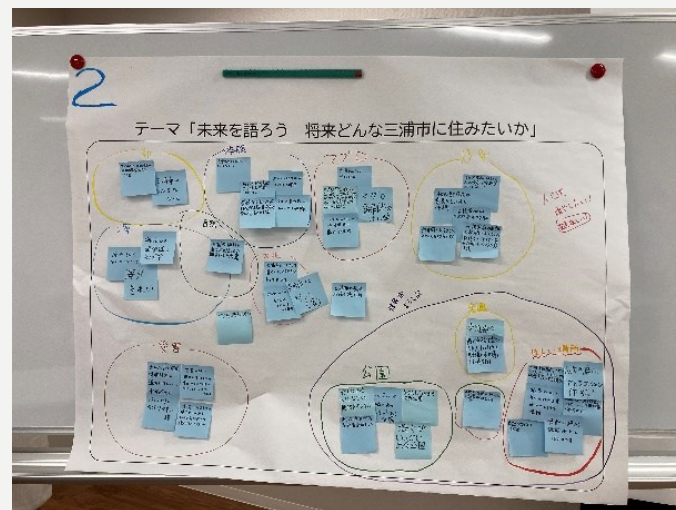
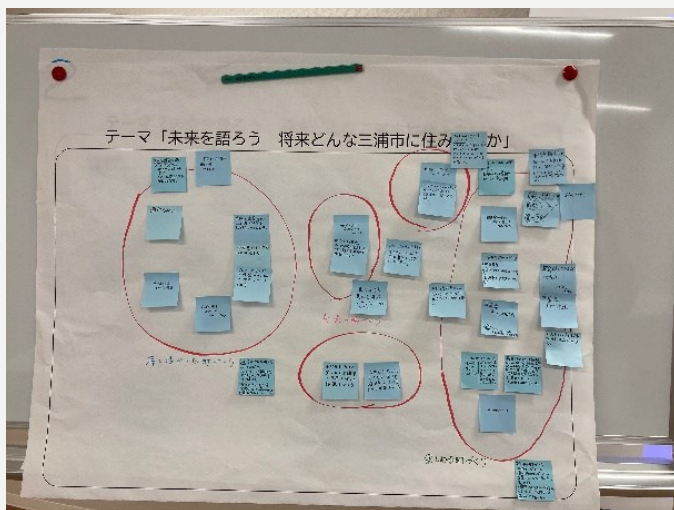
ワーキングテーマ

未来を語ろう
将来どんな三浦市に住みたいか

6 ワークショップの様子とワーキングの結果

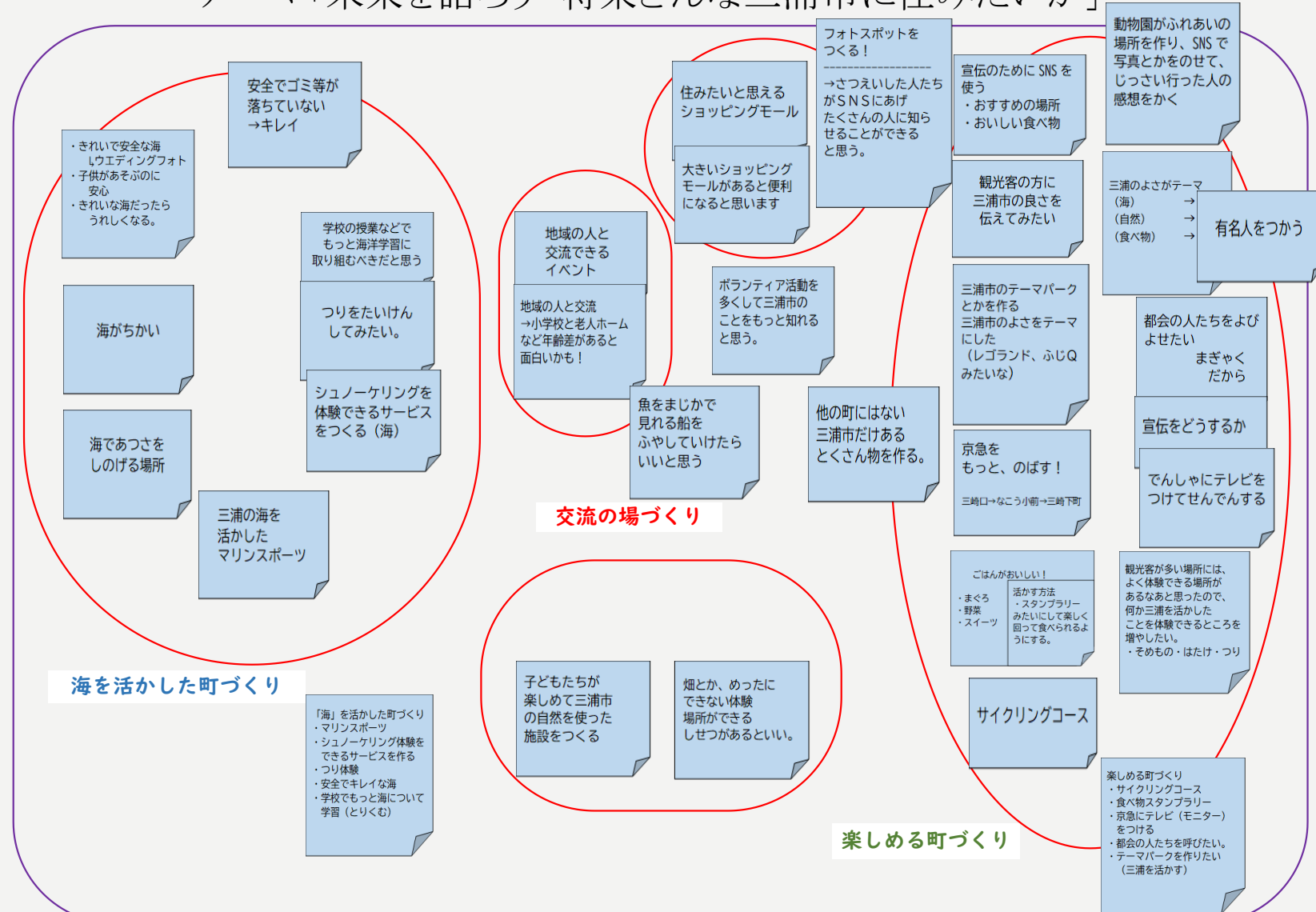


6 ワークショップの様子



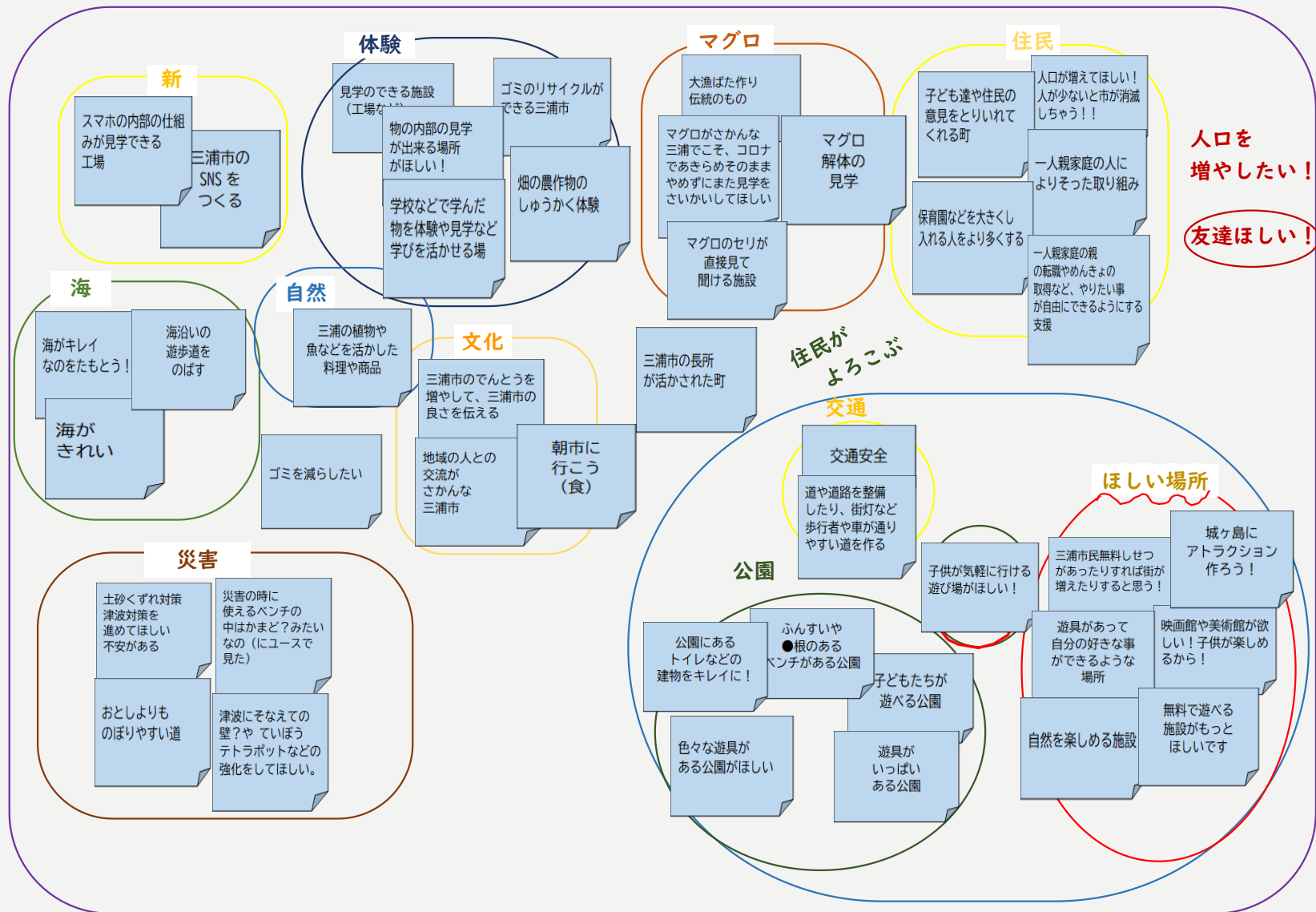
【1グループ】

テーマ「未来を語ろう 将来どんな三浦市に住みたいか」



【2グループ】

テーマ「未来を語ろう 将来どんな三浦市に住みたいか」



7 ワーキングのまとめ

【1グループ】

「海を活かした町づくり」

- 海の安全を考慮しつつ、三浦市の海を活かした町づくりを進めていきたい。
 - 学校の授業で海を活かした学習や交流体験を増やしていく。
 - 海のごみを拾って、きれいにして、海を活用して観光につなげる。観光客に海に来てほしい。

「楽しめる町づくり」

- 観光客を増やしていきたい。
 - 観光では、いまある三浦の資源、海や自然などを活かした体験を行っていき観光客を増やす。
 - ショッピングモールを作る。三浦市のいいところを活かしたテーマパークなどを作る。
 - フォトスポットを作る。

【前頁つづき】

○三浦市の良さを宣伝、発信していく。三浦の魅力を知ってもらってこそ、三浦に来てくれる。宣伝をしていく。

→三浦市の良さをどう宣伝していくか。SNSや電車内のモニターで案内する。

「交流の場づくり」

○三浦の人と人との交流を増やしていく。

→地域の人と交流できるイベントを増やす。子どもと高齢者、年齢差が合う人との交流も面白いかも。

【2グループ】

「体験」

○工場の見学、三浦の自然を生かした収穫体験や工場見学ができればいい。

「海」

○海沿いの遊歩道が短い。海もきれいだから、もう少し伸ばして歩きやすくする。

「災害」

○災害で、土砂崩れなどの情報や、津波が来た時に守ってくれる壁の設置ができたらいいい。

「自然・文化」

○三浦の自然、植物、魚などを活かした商品などをつくる。三浦に朝市もあるので、三浦市のいいところをSNSで広めて、よりよくしていきたい。

「住民がよろこぶ」

○交通安全

→道路を整備したり、街灯を増やしてほしい。歩行者や車が通りやすい道を作してほしい。

○公園・遊び場

→子どもが気軽に行ける遊び場が欲しい。

→公園にあるトイレなどの建物をきれいにしたい。子どもたちが遊べる公園が少ないので、公園を増やしたい。

○ほしい場所

→城ヶ島にアトラクションを作る。

→子どもが楽しめる映画館や美術館など、気軽に行けるところがあればいい。

→自然を楽しめる施設が欲しい。

「人口を増やしたい！！」

○人口が増えてほしい

→三浦市は人口が減って、市が消滅してしまうという話があるので、人口が増えるためには、住民や子どもの意見を取り入れて、活用をしてくれている町がいい。

○ひとり親家庭に寄り添った取り組みをしてほしい

→ひとり親家庭に寄り添った取り組みをしてほしい。ひとり親家庭の転職や免許の取得などの支援をしてほしい。

→やりたいことが自由にできるように支援をしてほしい。

○子育て支援

→弟が保育園に入ったが、入りたかった保育園に入れなかったなので、保育園を大きくしては入れるようにしてほしい。